

2 看護師確保対策

【課題及び各医療機関の意向等】

- 新卒での入職者を増やすため、修学貸付制度があることをもっとオープンにするべき。
- 高看ではなく大学志望の高校生が多い。傾向としても大学系の看護学生が増えてきている。
- 若い方はキャリアアップへの意欲が強いので、教育体制を充実させる必要がある。
- 既卒者は、旦那さんの職場があって転職してくるケースが多い。
- 江差町の修学貸付は月額5万円以内となっているが、食事代や家賃等の生活費を勘案し、月額を10万以内とする条例改正案を議会に提出。
- 都会にいらっしゃる方が、檜山はどんなところかわからないと来られないということを考えるとインターンシップのようなものを企画するのも一つ方法。
- 上ノ国町は、子育ての支援を充実させているので、シングルマザーの団体に募集をかけた。応募には至っていないが、来年度以降も引き続き継続していきたい。
- 乙部町の保健師は6名いてカツカツの状況ではない。たまたま地元に戻ってくるタイミングの関係で繋がっている。募集は常にかけている状態で、もし共同で募集をかける仕組みがあれば参加したい。
- 乙部町国保病院の人員確保に関しては、今の体制をどう維持していくのか。5年10年先を見据える以前の切実な問題。圏域外から人を呼び込む仕組みがないと、圏域でというと人材の奪い合いの形になってしまう。
- 奥尻高校は、島留学生として集めているため道外出身者が多く、看護師を目指したとしても地元に戻ってしまう。奥尻町国保病院では、看護学校の研修の受入れを始めて来年以降も継続してやっという計画になっている。看護専門学校や大学病院にも声かけして就職説明会的なものを行うことも計画。法人としてやっていただけなのであれば、さらに良い宣伝ができるのでお願いしたい。
- 看護助手を上手く育てるというのも一つ。看護師は少ないながらも看護業務だけメインにして、その他は電子カルテの入力も全部助手がやってくれていて戦力になっている。
- 川崎市医師会でそれぞれの病院の募集ページを集約する動きがある。今の若い人たちは SNS 等を見て自分で調べてくる。来た情報を共有できるシステムがあるとより良い。
- 情報発信力が非常に大事。まじめにやる人が1人いればいい。厚沢部町が保育園留学に成功したのも情報発信力。
- 継続的に地域の看護師を集めるようなチーム作ったらどうか。少しでも若者たちが(南檜山に)来られるようなことを一緒に考えていきたい。

【取組の方向性】

- 圏域の中高校生に対し、法人全体で道及び各町修学資金貸付制度の周知に取り組む。
また、圏域内外の動向を注視し、制度の充実・強化に努める。
- 法人ホームページを活用し看護師等の求人情報を発信する。
- 各町・医療機関による人材確保や育成の取組に関し、法人内での相互協力・支援を促進する。
 - ① 就職説明会等への合同参加に向けた、費用面の課題解決や関係団体との連携方策等を検討
 - ② 地域の看護師が参集する場の形成など看護師の育成や交流について、実施可能な取組を検討

3 圏域における今後の病床機能の検討

【南檜山圏域の医療を確保するための行動方針(令和2年3月) より一部抜粋】

3 今後の具体的な取組に関する方針

(1) 南檜山圏域全体での取組

- また、今後の更なる人口減少に伴い、医師のみならず、看護職員等の確保がより困難になることを見据え、入院患者数が少ない病棟が圏域内に散在する現状を改め、**圏域全体で病棟再編を実施することが必要です。**

(2) 各医療機関における取組等

① 江差病院

江差病院は、南檜山圏域の地域センター病院として、二次救急医療、一般入院医療、高度医療からの継続医療などを中心に対応することとし、以下のとおり医療機能を確保することとします。

○ 診療科

- ・ 高齢者に多く見られる疾患に対応できるよう、常勤医師の配置によって 総合診療科、循環器内科(心疾患、慢性腎臓病等)、消化器内科(消化器疾患)、整形外科(骨折、関節症等)、泌尿器科の診療体制を確保するとともに、小児科、精神科の診療体制を確保します。

○ 病床機能

- ・ **圏域内の入院機能を集約化**しつつ、一般2病棟を維持します。
なお、急性期機能については、10対1病棟(在院日数21日以内)を基本とし、また、回復期機能については、患者の状態に応じてより柔軟な対応が可能な地域包括ケア病床(在院日数60日以内)を増床します。
- ・ **南渡島圏域の急性期病院**(函館五稜郭病院、市立函館病院等)において急性期を経過した患者が、可能な限り早期に**江差病院に転院**できるような体制を確保します。
- ・ 在宅・施設生活への円滑な移行を支援できるよう、必要なリハビリ職種を確保するとともに、介護施設・事業所等との連携を強化します。また、他の医療機関と連携して訪問診療の提供や、在宅療養中に入院治療が必要となった患者を受け入れる「在宅療養支援病院」の要件を満たせるよう努めるとともに、レスパイト入院など患者家族の負担軽減にも取り組みます。

○ 診療機能

- ・ 救急対応について、圏域内の医療資源を有効に活用する観点から、**江差病院に集約化(各医療機関に応援を要請)**する方向で検討します。また、江差病院で対応困難な患者を円滑に南渡島圏域の急性期病院につなげられるよう、**広域的な連携体制を強化**します。
- ・ 回復期機能としては、脳卒中、大腿骨頸部骨折などの長期にリハビリを必要とする患者が圏域内でリハビリが受けられるよう体制を確保します。
- ・ 人工透析について、地域のニーズに対応できるよう、努めます。

② 各町立国民健康保険病院・診療所

各町において、以下のとおり「地域包括ケア」機能を強化します。

- ・ 厚沢部国保病院、乙部国保病院については、いずれも、江差病院の機能強化に併せ、入院医療機能について、江差病院に可能な限り集約するとともに、今後の更なる人口減少等を踏まえ、診療所化を含めた診療体制の見直しを行うこととし、町立上ノ国診療所及び上ノ国町立石崎診療所とともに、一次医療、かかりつけ医機能、在宅医療を提供していく機能を継続的に確保します。
- ・ 奥尻町国保病院については、離島である特殊事情を踏まえ、救急医療を確保するとともに、江差病院など圏域内の他の医療機関との連携強化を検討します。
- ・ 住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるよう、在宅医療と介護の連携体制を強化します。

【各公立病院の経営強化プランの策定状況】

令和5年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・「北海道公立病院改革推進プラン」改定 ・「乙部町国保病院経営強化プラン」策定 ・「奥尻町国保病院経営強化プラン」策定
令和6年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・「厚沢部町国民健康保険病院経営強化プラン」策定

【各経営強化プランにおける、今後病院の果たすべき役割等に関する記載】

改北 革海 推道 進病 院事 業 プ ラ ン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南檜山圏域の地域センター病院として、急性期医療、人工透析等、重要な役割を担っており、今後も必要な診療体制や回復期機能を確保 ・ 総合診療医の養成・確保に向けて、札幌医科大学が設置した「地域医療研究教育センター」に引き続き医学・研究フィールドを提供 ・ 札幌医科大学と連携を密にしながら、初期臨床研修医や医学生の研修受入を推進 ・ 地域医療構想の実現に向けて、地域医療連携推進法人南檜山メディカルネットワークにおける取組を通じて、医療機関間の機能分担、業務連携を推進
経厚 営沢 強部 化町 プ国 ラ民 ン健 康 保 険 病 院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独立採算制を原則としつつ、他会計負担金などにより経営の安定を図り、不採算部門を担う救急医療体制を堅持 ・ 地域のニーズに応じた訪問診療等の強化、在宅療養が困難な患者の入院の受入等、在宅医療、介護保険サービスとの連携 ・ 国の病床転換や廃止に係る有利な施策があれば活用 ・ 町内唯一の医療機関として、地域町民の健康保持と保健、介護、福祉対策の中心的役割を担うとともに、高齢化が進む中、施設入所者や在宅高齢者医療の推進と救急告示病院としての医療提供を継続 ・ 地域住民の子どもを含めた初期診療に係る第一次医療の充実とともに、包括的地域医療及びケア体制の構築を図って急性期や慢性期治療を継続し、南檜山圏域の高齢者医療を含めた拠点病院として担う
乙 部 町 国 保 病 院 経 営 強 化 プ ラ ン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在ある医療資源を活用しながら、地域の拠点病院である道立江差病院の急性期医療を確保 ・ 将来的には、急性期を経過した患者の在宅復帰に向けた医療機能を確保 ・ 介護部門と連携を図りながら各医療機関と介護施設等との役割分担を明確化 ・ 南檜山メディカルネットワークと連携を図りながら、医療体制を維持 ・ 特定保健指導における連携強化が今後の課題 ・ 地域包括ケア体制において、町民の健康づくりや在宅医療、療養介護の中心的な役割を果たしていく必要あり ・ 今後は、現在ある医療資源を活用しながら、地域の拠点病院である道立江差病院の急性期医療を確保しつつ、将来的には、急性期を経過した患者の在宅復帰に向けた医療機能を確保 ・ さらに高齢者を支える医療を推進するため、介護部門と連携を図りながら各医療機関と介護施設等との役割分担を明確にして、当面、慢性期医療を担う必要からこれらの医療体制を維持
経奥 営尻 強町 化国 プ保 ラ病 ン院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独立採算制を原則としつつ、他会計負担金などにより経営の安定を図り、不採算部門を担う救急医療体制を堅持する一方、北海道地域医療構想を踏まえ、病床数の見直しを図るとともに、南檜山地域医療連携システム(IT ネットワーク)を利用し、診療連携の推進を図る。 ・ 特定保健指導における連携強化が今後の課題 ・ 地域包括ケア体制において、町民の健康づくりや在宅医療、療養介護の中心的な役割を果たしていく必要あり ・ 在宅医療では訪問診療をはじめ、患者の自宅や介護保健施設と ICT を活用した遠隔診療システムを構築し、患者と医師の負担軽減を図る。

【取組の方向性】

■ 行動方針に基づき、南檜山医療圏の医療を確保するため、次の取組を加速（再掲）

- ① 道立江差病院における、圏域内の入院機能の集約化
- ② 各町立国民健康保険病院・診療所における、「地域包括ケア」機能の強化
（一次医療、かかりつけ医機能、在宅医療 等）

■ このため、重点支援区域の技術的支援を活用しつつ、
病床検討委員会において、次のテーマについて取組を具体化

- 南渡島圏域との連携強化について
 - ・ 急性期を経過した患者が、可能な限り早期に江差病院に転院できるような体制の確保
 - ・ 江差病院で対応困難な患者を、円滑に南渡島圏域の急性期病院につなげられるような広域的な連携体制の強化
- 地域の拠点病院である道立江差病院の急性期医療の確保について
- 各町の医療機関の役割の更なる明確化 及び 病床の機能分化の推進について
（将来的には、急性期を経過した患者の在宅復帰に向けた医療機能を確保）

1 「病床機能検討委員会」開催状況

- 第1回:令和5年8月28日(月)15:00~(道立江差病院1階リハビリカンファレンス室)
 - ・ 医療需要及び供給等に関する現状認識と各病院における取組状況について
 - ・ 行動方針に掲げた具体的な取組に関する方針の取組状況について

- 第2回:令和5年11月17日(金)18:00~(道立江差病院1階リハビリカンファレンス室)
 - ・ 各病院における救急対応の現状と集約化について
 - ・ 各病院及び町の看護師確保対策について

- 第3回:令和6年2月28日(水)18:00~(道立江差病院1階リハビリカンファレンス室)
 - ・ 各病院における救急対応の現状と集約化について
 - ・ 各病院及び町の看護師確保対策について
 - ・ 圏域における今後の病床機能の検討について

- 第4回:令和6年5月30日(木)17:00~(道立江差病院1階リハビリカンファレンス室)
 - ・ 論点検討(南檜山圏域の医療を確保するための取組の方向性について(レビュー)たたき台)

- 第5回:令和6年7月18日(木)14:00~(道立江差病院1階リハビリカンファレンス室)
 - ・ 論点検討(南檜山圏域の医療を確保するための取組の方向性について(レビュー)案)
→ 新たな「南檜山地域推進方針」への反映